

まちひとしごと

Vol. 23

Mt. Youtei Jr. JAZZ SCHOOL 運営委員会

事務局長 山田 洋 さん



子どもたちの笑顔を楽しみに

町 内駅前通りで、印鑑や各種印刷物、看板の制作などを行う『はんこ広場倶知安店』で代表取締役を務める山田洋さんは、羊蹄山麓で唯一のジュニアジャズスクール『Mt. Youtei Jr. JAZZ SCHOOL』の事務局長として、子どもたちの活動を支えている。

広島県に生まれ育った山田さんは、小学生の頃にアルペンスキー競技に打ち込んだが、高校生で自動二輪の免許を取得し、卒業後は東京でバイクレーサーとして企業に所属した。しかし、21歳でレース中の事故によるケガが原因で引退。その後は都内で広告代理店などに勤めたという。

その頃に会社の旅行などで、北海

道のスキー場を訪れる機会がたびたびあり、中でもニセコの雪質にほれ込んだ山田さんは、倶知安町への移住を考え、29歳の時、結婚と同時にこの町に移り住んだ。

「移住してからは、民間企業に11年間勤め、その間に2人の子どものも恵まれました。いつかは起業をと考えていたので、積極的に地域の方々と親しくさせて頂き、40歳で現在の会社を立ち上げました」

平成24年の『Mt. Youtei Jr. JAZZ SCHOOL』設立に携わることになったのも、その時に培った町の人との繋がりがあったからだと言います。

当時、札幌市芸術文化財団が、北海道内でジャズを広めるため、札幌市以外の自治体に子どもたちのジャズスクールの設立をと考えていた。そこで、過去に倶知安町でジャズフェスティバルを開催していた経緯から、移住してから付き合いのあった当時の実行委員会の方に、財団から打診があり、山田さんにも運営委員会のメンバーとして声がかかった。「私自身は音楽への興味はなかったものの、娘がピアノを習っていたことや、もともと子どもが好きだったこともあり、事務局長を引き受けました」

設立当初は財団からの補助金で講師の派遣や、楽器の準備などをしてきたが、半年後にその補助はなくな

り、活動の継続自体に頭を悩ませることになったという。

「子どもたちの、ジャズを続けたい。という思いが強く、私たちも何とか継続させてあげたいと考え、地域の方々や地元企業などからの理解と協力を得ようと奔走しました」

この時に行政の支援に頼って活動を続けるという選択肢もあったのかもしれない。しかし、山田さんはこの活動を長く続けていくためにも、関係者が資金集めや楽器の調達などに汗をかき、責任と覚悟を持って進めていくことが必要と考えた。

「活動は6年目になり、現在も地域の方々や地元企業、関係団体の支援や協力により、補助金などに頼らない活動を続けています。枠に捉われない自由な発想で、子どもたちにさまざまな経験をさせてあげたいです」

現在のメンバーは小学校2年生から中学校3年生までの35名。6月16日には倶知安での今年度初公演として、この日オープンしたまちなか広場でのライブを実施。そこには楽しそうにスイングする子どもたちと、裏方として楽器運びなどに汗を流し、子どもたちの成長を温かく見守る山田さんの姿があった。